

## 『気づかないこと』

小城市立小城中学校 2年 山口 美憂

最近、学校内でのいじめ、職場内のいじめが増えつつあります。そこで増えつつあるいじめについて考えたいと思います。

私は、小五から六年の一学期までいじめをうけていて、ずっと不登校でした。私のいじめはみなさんが思っているようなひどいいじめではありませんでしたが、メンタルが弱い私は、精神的にひどくおいつめられていました。むしはあたりまえ、かげ口をわざと聞こえるようにいたり、本当ではないうわさを流されたりすることで、他の人からもさけられるようになりました。私は一人でなにがいけなかったのか、何が悪かったのか、ずっと考えてるうちに自分に自信がなくなり、学校にいきたくなくなりました。親に無理やり学校に行かされようとしても、ぜったいに行きませんでした。今でも、なにかあったら、学校に行きたくなくなるし、悪口が聞こえたら、自分のことじゃないかと怖くなってしまいます。一人でいることが怖くなり、みじめな気持ちになります。家では、何かあったら、いい返せるのですが、学校となると、またいじめられるんじゃないだろうかと思ってしまい自分の意見がいえず、嫌なこと嫌といえませんが、そんな自分が嫌です。でも、いつも近くにいる母の言葉で小五の私にも、今の私の助けになってくれます。小五の頃、母の言葉で学校に少し行ったり、家庭中での、サポートがあったことにより、小六の2学期から学校に行けるようになりました。

私はこんな経験をして、2つ学んだことがあります。一つは、身近にいる人の力はすごいと分かりました。親や、友人のサポートがあったからこそ私は、

今の自分がいると思います。人は励ましあいながら生きていくことが大切だと感じました。2つ目は、気づかないうちに自分がいじめてしまっているということです。いじりだろうと自分がおもっていても、相手は、ものすごく嫌でおいづめられているかもしれません。これはいじめになっていると思います。気づかないうちにいじめているということは誰にでもありえることなのです。人は、相手の思っていることが分かりません。だからこそ、相手に気をつかい、言葉を考えながら、はっとすることが必要だと知ることができました。

私は、このような経験から、人との関わりを大事にし、相手の気持ちを考えられるようになったと思います。

たいと思います。